

出版流通と資料選択



水戸市立見和図書館 西川啓子
(日本図書館協会 認定司書 1184号)

水戸市立図書館

- ・水戸市内に6館
- ・中央館・・・水戸市直営
- ・地区館5館(東部・西部・見和・常澄・内原)・・・民間業者による指定管理館



西部図書館



内原図書館



東部図書館



※画像はすべて
水戸市立図書館HPより



見和図書館



中央図書館



常澄図書館

自己紹介

一般企業(サービス業)勤務(※退職後に図書館司書資格取得)

1997年～1998年 水戸市立中央図書館

1998年～2001年 水戸市立西部図書館

2005年～2015年 水戸市立中央図書館

2015年～2016年 茨城大学教育学部図書室

2016年～現在 水戸市立見和図書館

2017年～2019年 筑波大学 図書館情報メディア研究科
博士前期課程(修士課程)修了

2021年 日本図書館協会 認定司書に認定

2023年～ 日本図書館協会 非正規雇用職員に関する委員会委員

はじめに

図書館員が出版流通について学ぶ意味は？

- ・ 図書館にあるのは(おもに)本や雑誌などの出版物
- ・ 図書館は、本と読む人(読者)をつなぐ場所
- ・ 図書館は、住民の「知る権利」を保証する役割を担う

図書館で働くうえで、

- ・ どのように読者のもとに本が届けられているか
- ・ 出版界のしくみや状況
 - ☞ 把握して業務にあたることは、とても大切なこと



「図書館員の倫理綱領」

(前文)

この倫理綱領は、「図書館の自由に関する宣言」によって示された図書館の社会的責任を自覚し、自らの職責を遂行していくための
図書館員としての自律的規範である。

この綱領でいう図書館員とは、図書館に働くすべての職員のことである。綱領の各条項の具体化に当たっては、図書館長の理解とすぐれた指導力が不可欠である。

この綱領は、すべての図書館員が館種、館内の地位、職種及び司書資格の有無にかかわらず、綱領を通して図書館の役割を理解し、綱領実現への努力に積極的に参加することを期待している。さらに、図書館に働くボランティアや図書館同種施設に働く人びと、地域文庫にかかわる人びと等による理解をも望んでいる。

「図書館員の倫理綱領」

(文化創造への寄与)

第12 図書館員は、**読者の立場に立って出版文化の発展に寄与する**ようつとめる。

出版の自由は、単に資料・情報の送り手の自由を意味するのではなく、より根本的に受け手の知る自由に根ざしている。この意味で図書館は、読者の立場に立って、**出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つ**。また図書館員は、「図書館の自由に関する宣言」の堅持が、出版・新聞放送等の分野における表現の自由を守る活動と深い関係を持つことを自覚し、常に読者の立場に立ってこれら関連分野との協力につとめるべきである。

第1部 出版流通について



日本の出版流通の特徴

(1)「取次一書店ルート」

出版社→取次→書店ルートが主要な流通ルート

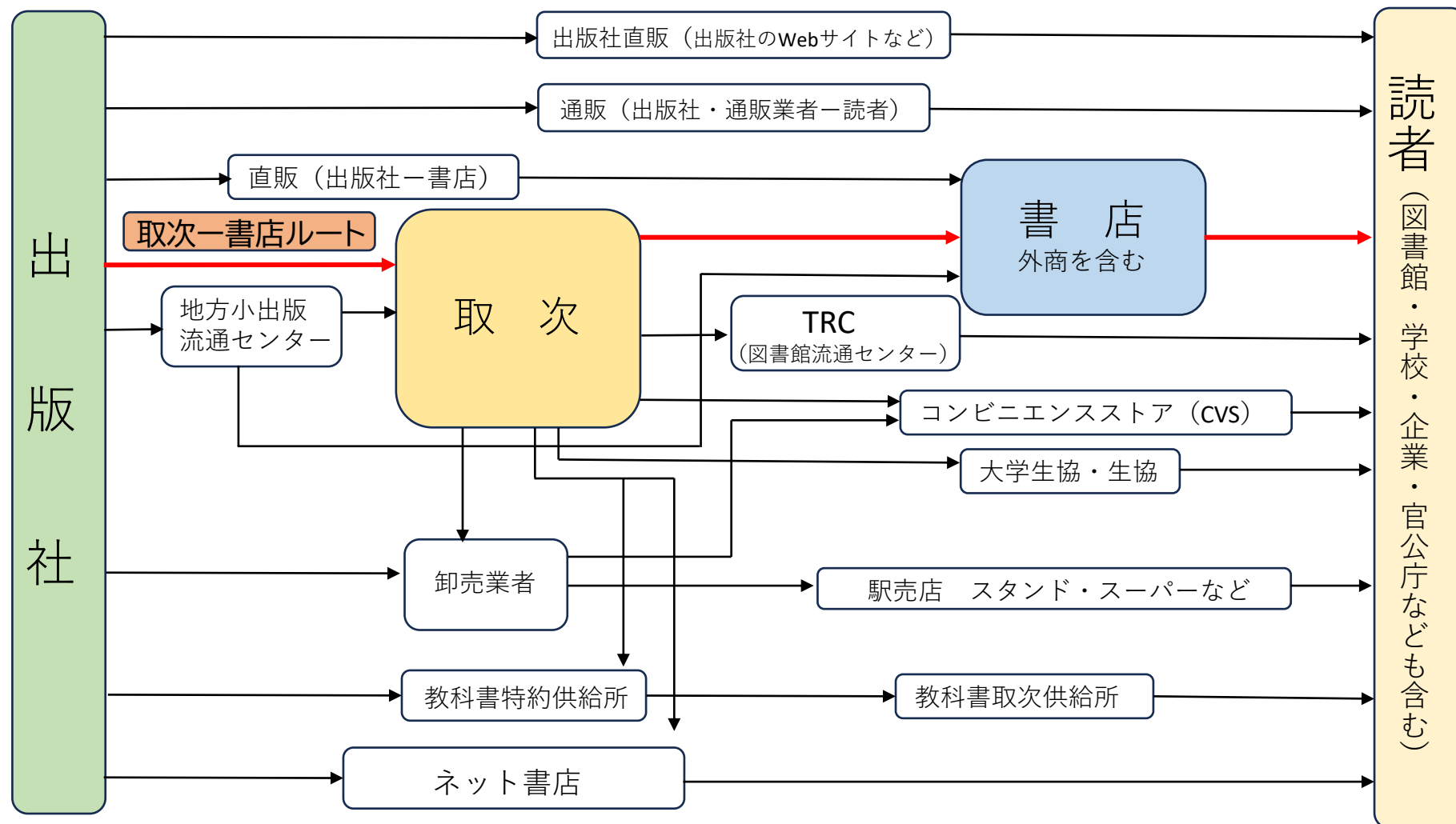
(2)取次会社の存在

出版社と書店の間を取り持ち、物流機能を持つ業者

(3)再販制度・委託制度

日本の出版流通システムを形作ってきた制度

出版物の流通ルート



各流通ルート割合

- ①「取次一書店ルート」:57.7% (前年比94.9%)
 - ・出版物流のメインルート。現在でも販売シェアの約6割を占める。
- ②「インターネット」:21.1% (前年比98.7%)
 - ・インターネット上の書店を経由したルート。(紙媒体のみ)
- ③「出版社直販ルート」:13.1% (前年比102.9%)
 - ・出版社と書店が直接取引するルート(近年増加傾向にある)。
 - ・出版社が直接読者に本を販売するケース。個人や官庁、学校等、組織向けなどもあり
- ④「コンビニエンスストア(CVS)ルート」:6.2% (前年比89.2%)
 - ・コンビニエンスストアへの、雑誌や一部書籍などの販売ルート。
- ⑤「その他」:1.9% (前年比73.5%)
 - ・大学生協や生協、駅、スーパー・ドラッグストア等のスタンドなど。
(※生協は再販制度の適用除外対象になっている)

取次会社①

- ・ 出版社と書店の中間にある流通業者で、他産業では問屋にあたる。
- ・ 出版物を全国の書店に送品する運輸機能、書店や読者に出版情報を提供する機能の他、集金、金融など多面的な機能を有する。
- ・ トーハン、日本出版販売(日販)、楽天ブックスネットワーク、日教販、中央社等がある。

(『出版社の日常用語集 第5版』より)

取次(販売会社)数: 18社

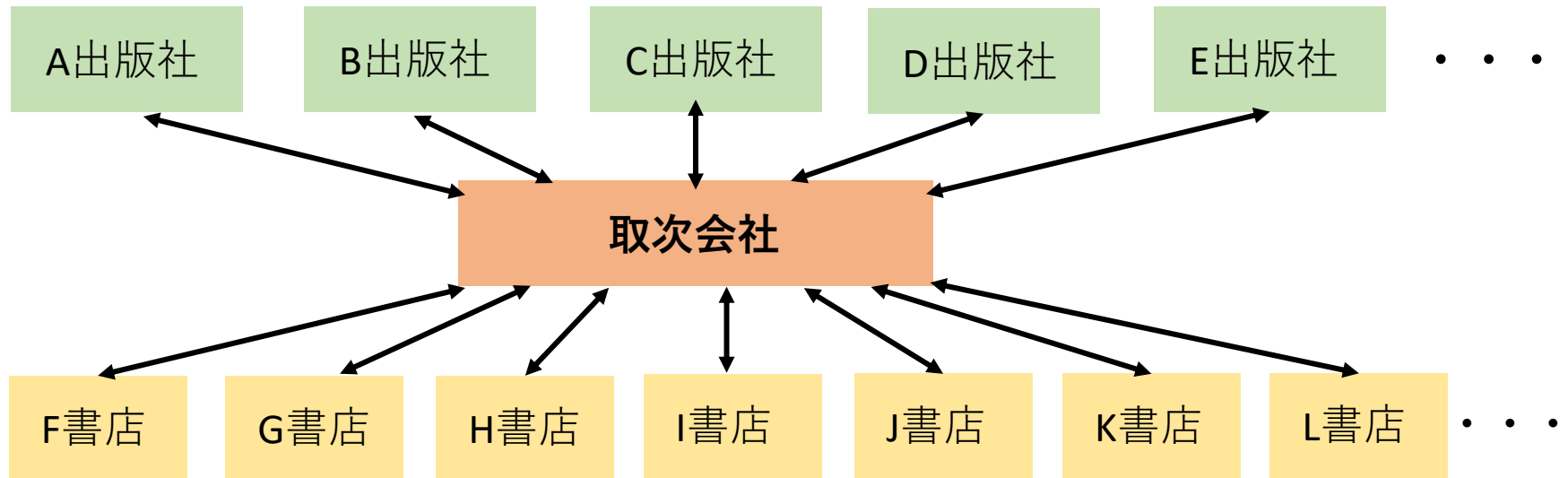
(日本出版取次協会加盟社:2023年12月現在)

取次会社②

さまざまな機能・・・大きな力を持つ

- ・ 出版社からの仕入れ
- ・ 書店への適正な配本
- ・ 代金の回収、支払い
- ・ 書店から出版社への返品
- ・ 情報の提供

※「パターン配本」「データ配本」： 地域性や客層、立地や規模などを考慮して、自動的に書店に配本するシステム。書店側の考えは入っていない。



再販制度・委託制度①

①再販制度とは・・・「再販売価格維持制度」

- ・ 出版社が決定した販売価格(＝定価)を、取次・書店に守ってもらう制度。

「定価販売」：全国一律同一価格 → 出版物に対する地域格差がない

- ・ 本来、価格の拘束は独占禁止法で禁止されているが、書籍・雑誌・新聞・音楽CD・音楽テープ・音楽レコードの6品目については、文化教育の普及のためとして、例外的に独占禁止法の適用除外措置とされている。

※電子書籍は「再販対象外」：「情報」として流通しているため

再販制度・委託制度②

②再販制度についての存続論・撤廃論

これまでに何度か、存続／撤廃についての議論がなされてきた

【存続派】 ○出版物の多様性のため(内容が偏ることを防ぐ)
 ○出版社・書店の倒産を防ぐ
 ○購入の利便性、価格の同一性

【撤廃派】 ○買切り品でも値引き販売ができない
 ○自由な価格競争、商取引が育たない

→議論はあるが、「**当面の間は存続**」ということに落ち着いている

再販制度・委託制度③

③委託制度とは・・・「書店が出版社の代わりに本を販売すること」

- ・ 書店は「一定期間の売れ残りを出版社に返品できる」制度
- ・ 返品率は、書籍:33.4% 雑誌:42.5% (ともに2023年)

『出版指標年報2024』より

委託期間

	出版社一取次会社	取次会社一書店
書籍(新刊)	6か月	3か月半 (105日)
雑誌(月刊誌)	3か月	2か月 (60日)
雑誌(週刊誌)	2か月	45日間

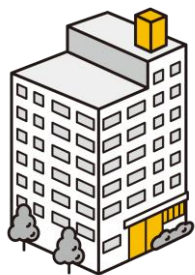
『出版営業入門 第4版』より

出版市場の基本的な統計

①出版社数: **2,908社** (「経済構造実態調査 2020年」より)

②取次(販売会社)数: **18社** (日本出版取次協会加盟社:2023年12月現在)

③書店数: **10,918店** ※「坪あり店舗数」:**8,051店**
(「JPO 書店マスタ管理センター 2024年4月作成」より)



出版社
2,908社



取次
18社



書店
10,918店
(8,051店)

2023年 出版市場の主な統計

- ①書籍新刊点数: 64,905点(▲1,980点 97.0%)
- ②書籍推定発行部数: 25,777万冊 (※初版の部数)
- ③初版刷り部数(推定): 3,971冊 (②÷①)
- ④新刊書籍平均単価: 1,305円 (1,268円 102.9%)
- ⑤雑誌出版点数: 2,389点 (▲93点 96.2%)
- ⑥雑誌平均単価: 661円 (627円 105.4%)
- ⑦コミック出版点数: 14,761点
(書籍扱い:5,158点、雑誌扱い:9,603点)

(『出版指標年報 2024』より)

書籍新刊点数と販売額の推移

年	書籍新刊点数（点）	推定販売金額（億円）	
		図書	雑誌
2013	77,910	7,851	8,972
2014	76,465	7,544	8,520
2015	76,445	7,419	7,801
2016	75,039	7,370	7,339
2017	73,057	7,152	6,548
2018	71,661	6,991	5,930
2019	71,903	6,723	5,637
2020	68,608	6,661	5,576
2021	69,052	6,804	5,276
2022	66,885	6,497	4,795
2023	64,905	6,194	4,418

『出版指標年報2024』より

電子書籍の販売額①

- ・2023年の出版販売額(紙＋電子)は**1兆5,963億円**
- ・電子出版の市場規模は年間で**5,351億円**

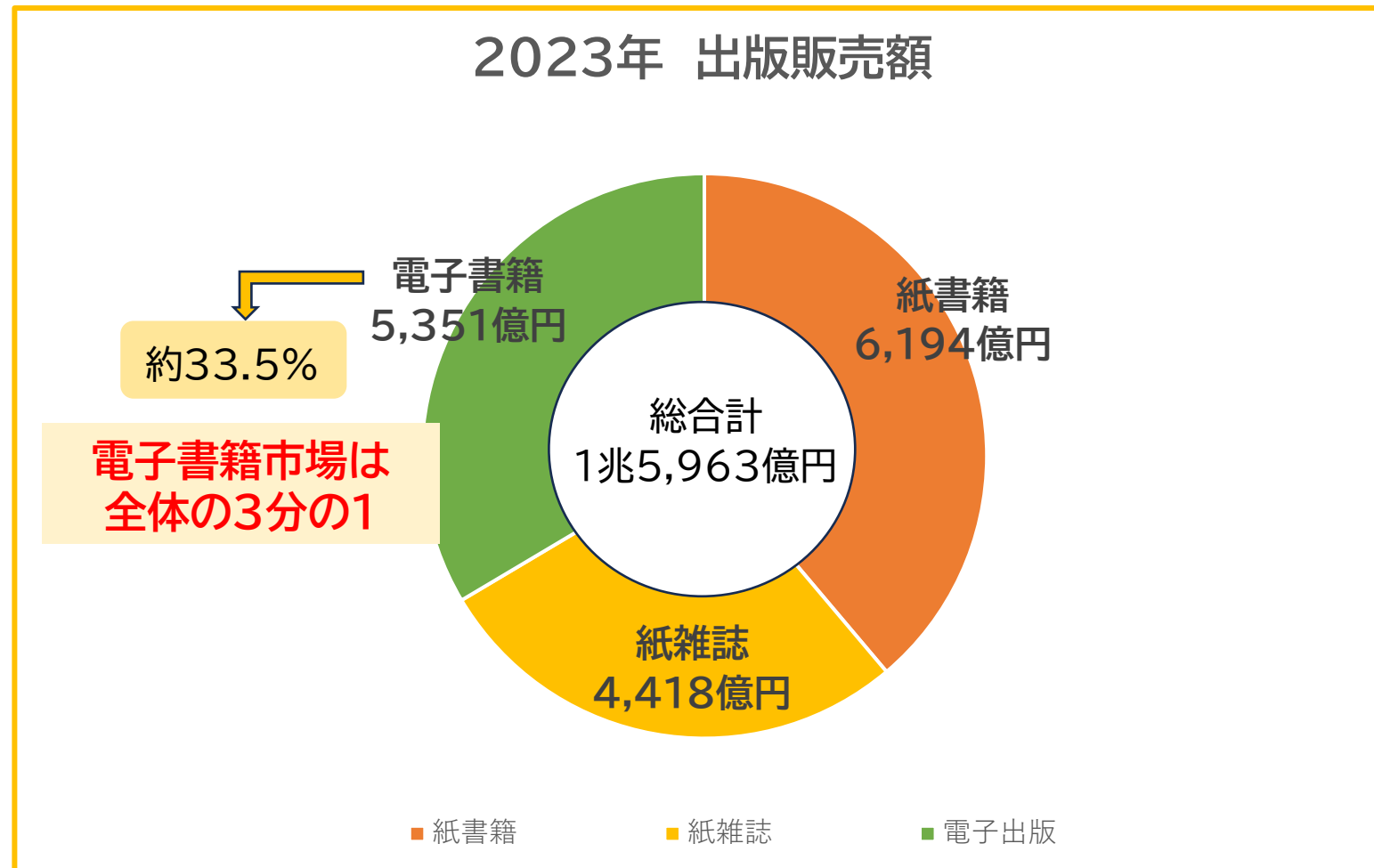
紙書籍・電子書籍販売額の推移

単位:億円

	年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
紙	書籍	7,370	7,152	6,991	6,723	6,661	6,804	6,497	6,194
	雑誌	7,339	6,548	5,930	5,637	5,576	5,276	4,795	4,418
	紙合計	14,709	13,700	12,921	12,360	12,237	12,080	11,292	10,612
電子	電子コミック	1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	4,114	4,479	4,830
	電子書籍	258	290	321	349	401	449	446	440
	電子雑誌	160	178	156	130	110	99	88	81
	電子合計	1,909	2,215	2,479	3,072	3,931	4,662	5,013	5,351

『出版指標年報2024』より

電子書籍の販売額②



電子コミック市場規模の拡大①

コミック販売額の推移

単位:億円, %

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	前年比
紙版	コミックス	1,947	1,666	1,588	1,665	2,079	2,087	1,754	1,610	91.8
	コミック誌	1,016	917	824	722	627	558	537	497	92.6
小計		2,963	2,583	2,412	2,837	2,706	2,645	2,291	2,107	92.0
電子コミック (電子コミック誌含む)		1,491	1,747	2,002	2,593	3,420	4,114	4,479	4,830	107.8
合計		4,454	4,330	4,414	4,980	6,126	6,759	6,770	6,937	102.5

『季刊出版指標 2024年夏号』より

電子コミック市場規模の拡大②

2023年 出版販売額

コミック合計:6,937億円
(販売額全体の43.4%)

電子コミック・
電子コミック誌
4,830億円

紙コミック・
紙コミック誌
2,107億円

総合計
1兆5,963億円

コミック以外の出版物
9,026億円

■ コミック以外の出版物
■ 電子コミック・電子コミック誌

■ 紙コミック・紙コミック誌

書店の減少

年	総店舗数	坪あり店舗数
2013	15,602	11,713
2014	14,658	11,147
2015	14,468	10,809
2016	14,098	10,488
2017	13,576	10,116
2018	13,085	9,686
2019	12,653	9,285
2020	12,343	9,082
2021	11,952	8,806
2022	11,495	8,478
2023	10,918	8,051

『出版指標年報2024』より

ネット経由／リアル書店経由購買額比較

年度	ネット経由			リアル書店経由			合計	
	購買額 (億円)	前年比 (%)	構成比 (%)	購買額 (億円)	前年比 (%)	構成比 (%)	購買額 (億円)	前年比 (%)
2020	7,380	128.5	42.0	10,175	98.5	58.0	17,555	109.2
2021	8,503	115.2	46.2	9,888	97.2	53.8	18,391	104.8
2022	9,542	112.2	50.3	9,440	95.5	49.7	18,982	103.2
2023	9,986	104.7	53.1	8,834	93.6	46.9	18,820	99.1

日販ストアソリューション課『出版物販売額の実態2023、同2024』より

書店の減少への危機感の高まり①

○自由民主党「街の本屋さんを元気にして、日本の文化を守る議員連盟」（通称:「書店議連」、2017年3月発足）

→「第一次提言」を政府へ提出(2023年4月)

○文部科学省『図書館・書店等連携実践事例集』の公表
(2024年6月)

→図書館と書店等との連携を促進するため、ホームページ上で発表

○経済産業省内「書店振興プロジェクトチーム」
『関係者から指摘された書店活性化のための課題(案)』
(2024年10月)

→パブリックコメントを募集(※結果は未公示)

書店の減少への危機感の高まり②

○JPIC(出版文化産業振興財団)・日本図書館協会・文部科学省
総合教育政策局 「書店・図書館関係者における対話の場」
(2023年10月～2024年3月にかけて4回開催)

→ 「書店・図書館等の連携による読書活動の推進について」として、
対話のまとめを2024年4月に公表

- ①図書館による新刊書籍市場への影響についての認識
- ②図書館の資料収集に関するガイドラインの策定
- ③図書館と地元書店の取引における適正価格
- ④読者育成のための連携促進

書店と図書館の連携

○「書店在庫情報プロジェクト」

→ 全国の書店在庫情報を統合することで、近隣で購入可能な店舗を簡単に探せるサービスの提供を目指すプロジェクト

- ・ 出版文化産業振興財団(JPIC)、カーリル、版元ドットコムが共催し、2024年6月から実証実験開始
- ・ 図書館のOPACとの連携も検討・・・県立長野図書館(「信州ブックサーチ」)では2024年7月から実証実験開始

○書店での市立図書館書籍の受渡しサービス

→ 予約した市立図書館の本の受け取りや返却、リクエスト用紙からの予約ができるサービスを地元書店で可能にした

- ・ 東京都の町田市立図書館と、地元書店との連携事業(2023年5月開始)

→ 「関係者間の相互理解を積み上げ、協力できることから始める」

第2部 資料選択について



資料選択とは①

「不特定多数の利用者を想定し、一定の蔵書構成を実現するために収集すべき個別の資料を選択すること。選書ともいう。または、蔵書の中から特定の利用者のために適書を選択すること。

すなわち、現存蔵書の充実度、利用頻度、利用者ニーズを考慮して、個々の資料を図書館に受け入れるかどうかを決定する作業やその過程を指す。」

資料選択とは②

「資料選択は、**収集方針**や年度ごとの重点計画に基づいて行われ、**選択基準**に従って、個々の資料タイプが図書館の目的に適合するか、資料の有用性と費用対効果はどうか、利用者要求やニーズを充足させるか、資料収集の緊急性と優先順位は適正であるかどうかなどを判断して行われる。」

さまざまな「選書」

- ①購入(収集)するための選書
- ②**展示**するための選書
- ③**除架**や**除籍**するための選書



※除架・・・開架書架から閉架書庫に移動させること
(除籍のために書架から本を抜くことも含まれる)

※除籍・・・図書館の蔵書から除く(消す)こと

蔵書構成とは①

「図書館蔵書が図書館のサービス目的を実現する構造となるように、資料を選択、収集して、計画的組織的に蔵書を形成、維持、発展させていく意図的なプロセス。」

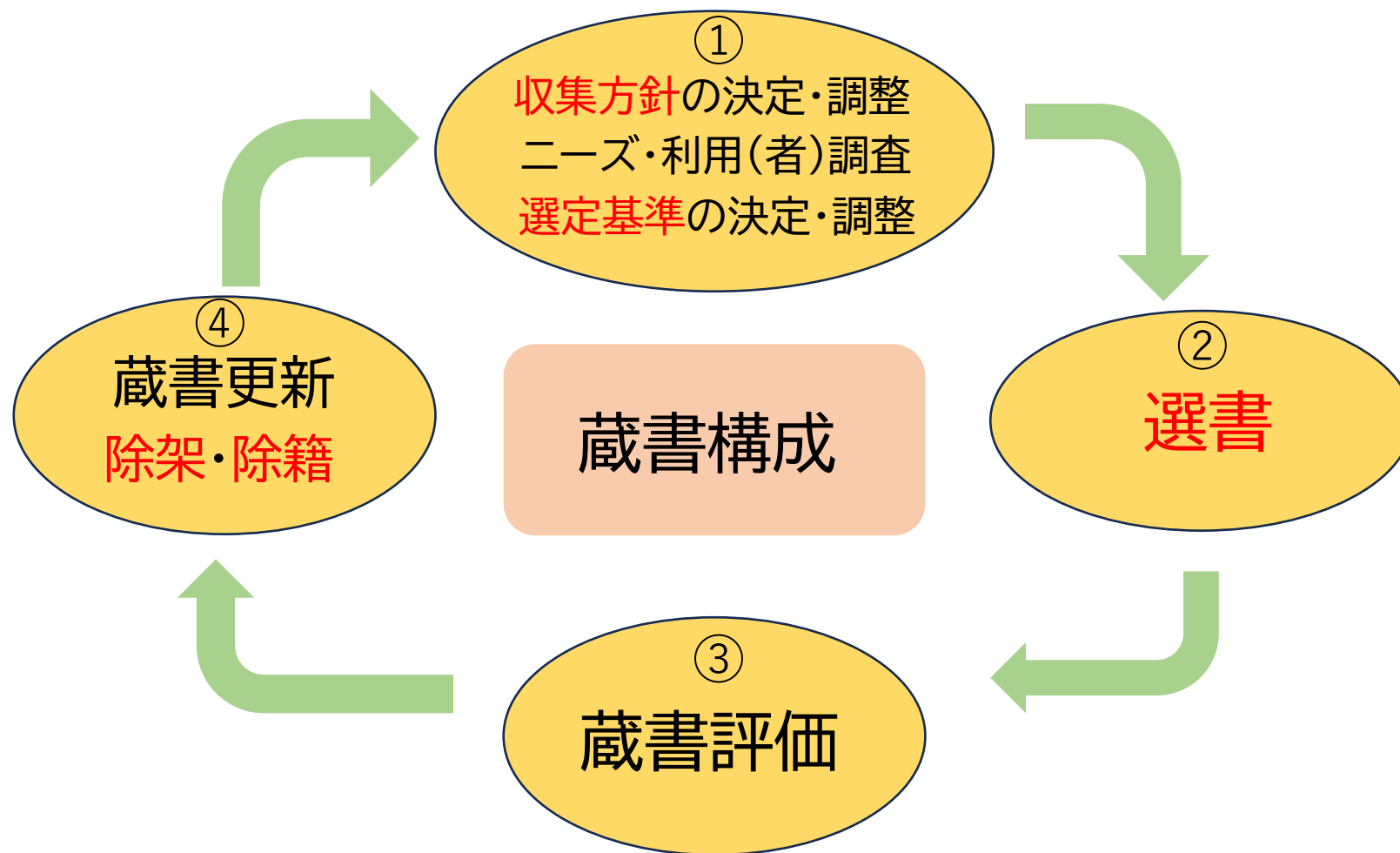
「収集方針の決定と調整、ニーズ調査、利用(者)調査、蔵書評価、資源共有計画、蔵書維持管理、除籍などの諸活動が含まれる。」

蔵書構成とは②

「図書館蔵書は固定した資料群ではなく、新しく刊行された資料を追加したり、過去の資料を遡及収集したり、使われなくなった資料を外したりするなど、**動的な資料群**である。」

「そのため、**蔵書構成**のプロセスは、蔵書評価による資料の更新、除架、除籍、保存など、蔵書の再構築作業を含む蔵書の系統的な発展活動である。」

蔵書構成のサイクル



「収集方針」と「選定基準」①

①収集方針とは・・・「資料収集にあたっての**基本方針**」

→どのような蔵書構成を実現していくかを示し、それにより
目指すべき図書館サービスを達成させる

○「図書館基本計画」などで確認できる

- ・ どのような資料を重点的に収集するか
- ・ 収集することにより、どのようなサービスを目指しているか

○自治体の**重点課題**を意識して蔵書構成を考える必要

→行政に**図書館の重要性**を理解してもらうことは大切なこと

- ・ 予算の獲得、予算執行の方法、人材の確保などに影響すること

「収集方針」と「選定基準」②

②選定基準・・・「資料収集にあたっての実務的な基準」

→予算上の制約や施設の状況により、優先順位や制約があるときの拠りどころとして必要になる

○各図書館の実情などにより、細かく決められている

- ・ 地区館・分館などがある場合、どのように分担するか
(分類や複本など)
- ・ 1冊あたりの購入額の限度(参考資料以外)
- ・ しかけ絵本など特定の装丁の購入範囲
- ・ コミック、学習参考書、資格試験問題集などの購入の有無・・・ など

→共有されていますか？

個人の好みや思い付き、担当が変わった時に、わからなくなるなどがないように

「図書館員の倫理綱領」

(資料に関する責任)

第4 図書館員は図書館の自由を守り、資料の収集、保存および提供につとめる。

図書館員は、専門的知識と的確な判断とに基づいて資料を収集し、組織し、保存し、積極的に提供する。そのためには、資料の収集・提供の自由を侵すいかなる圧力・検閲をも受け入れてはならないし、**個人的な関心や好み**による資料の収集・提供をしてはならない。図書館員は、**私的報酬や個人的利益**を求めて、資料の収集・提供を行ってはならない。

→ **何のために選書するのか？**

「住民のため」「図書館のため」

…何が足りないか？あるべきものは何か？を考える

「図書館員の倫理綱領」

(資料に関する責任)

第5 図書館員は常に**資料を知る**ことにつとめる。

資料のひとつひとつについて知るということは決して容易ではないが、図書館員は**常に資料を知る努力**を怠ってはならない。資料についての十分な知識は、これまでも図書館員に対する最も大きな期待のひとつであった。図書館に対する要求が飛躍的に増大している今日、この期待もいちだんと高まっていることを忘れてはならない。さらに、この知識を前提としてはじめて、潜在要求をふくむすべての要求に対応し、資料の収集・提供活動ができることを自覚すべきである。

→ **図書館員に求められる知識量は増えている**

新しい知識分野(情報、法律、医療など)

…ひとりで対応するのは荷が重い。仲間と共有し合おう

選書の考え方

「価値論」：資料重視型

価値のある良書を図書館側が主体となって選定するのは当然で、多くの利用者に求められる、一時的な流行のベストセラーを蔵書に加えるのは慎重にするべき」という考え方

「要求論(予約・リクエスト)」：利用者重視型

「利用者の要求に積極的に応えるべき」という考え方
→ 『市民の図書館』日本図書館協会(1970)

- ・ 貸出中心の図書館
- ・ 予約が多くある本の「複本購入」につながる→出版界からの批判へ

選書の方法

①カタログ・リスト選書

- ・ 網羅的に選ぶことが出来る
- ・ 時間や場所の制約が少ない
- ・ 中身がわからない、納品に時間がかかる

間接選書

②現物見計らい

③出版社等のブックフェア、ブックキャラバン

- ・ 中身を見て選ぶことが出来る
- ・ 納品までの時間が少ない
- ・ 網羅的ではないことがある(テーマ・分野など)

直接選書

④個別注文(リクエスト)



選書のポイント（どこを見て選ぶか）

テーマ: 同じテーマでもレベルや切り口が違う

構成: タイトルと内容が一致するか

著者: どんな人物か、専門分野は何か

出版社: どんな分野が得意か

装丁: 壊れやすさ（貸出に耐えうるか）

類書: すでに類書がどれくらいあるか

価格: 価格と内容が適切か

発行: 情報は新しいか、古くても必要な情報か

実際の書架の
状況なども見て
確認しよう



カテゴリー別おもな出版社①

【文芸書】

講談社、文藝春秋、集英社、新潮社、河出書房新社、KADOKAWA、
幻冬舎、小学館、筑摩書房、中央公論新社、東京創元社、早川書房、
双葉社、光文社、祥伝社 など

【実用書】

池田書店、学研、講談社、主婦の友社、主婦と生活社、西東社、成美堂
出版、誠文堂新光社、世界文化社、高橋書店、永岡書店、文化出版局、
オレンジページ、エクスナレッジ など

【人文書】

明石書店、岩波書店、大月書店、勁草書房、青土社、創元社、筑摩書房、
白水社、平凡社、みすず書房、未来社、吉川弘文館、法政大学出版会、
東京大学出版会 などの大学出版社

カテゴリー別おもな出版社②

【ビジネス書・法律書】

NTT出版、学陽書房、三修社、青林書院、ダイヤモンド社、中央経済社、東洋経済新報社、日本経済新聞出版社、日本実業出版社、PHP研究所、有斐閣 など

【コンピュータ関連書】

インプレス、SBクリエイティブ、技術評論社、秀和システム、翔泳社 など

【児童書】

あかね書房、岩崎書店、偕成社、学研、教育画劇、金の星社、クレヨンハウス、国土社、こぐま社、小峰書店、小学館、少年写真新聞社、すずき出版、童心社、農山漁村文化協会、BL出版、福音館書店、フレーベル館、ブロンズ新社、ポプラ社、ほるぷ出版、理論社 など

※下線は「十社の会」

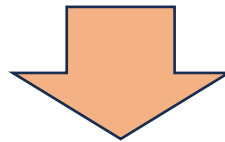
収集が難しい出版物

【地方小出版・直販出版社・古書・個人出版 など】

- ・ 地元紙や、地元情報を発信するSNSなどから情報を得る
- ・ 地元に関する内容の個人出版物は郷土資料として重要

【官公庁(灰色文献)】

政府文書、政府関係機関、非営利団体等の研究調査報告書や提言、民間団体の作成資料(報告書・意見書など)、企業出版物、テクニカルレポート(研究報告書)など



様々な方面で常にアンテナを張り、情報を集めるようにする
(1人では大変だが、複数人なら得意・関心のある分野が違うので可能)

本に関する情報源①

- 書店の店頭で・・・POP、ビラ、「〇〇フェア」、出版社目録、フリーペーパー
- 新聞・雑誌・・・広告、書評、文化欄、記事、訃報
- 専門誌・・・『本の雑誌』、『文化通信』、『新文化』、『図書通信』、『ダ・ヴィンチ』
- メディア・・・テレビの本の紹介番組、情報バラエティ番組の本紹介コーナー
- Webサイト・・・オンライン書店、出版社、書店のHP、SNS、書評サイト
- 出版社のPR誌・・・岩波書店「図書」、新潮社「波」、集英社「青春と読書」、筑摩書房「ちくま」、みすず書房「みすず」、講談社「本」、朝日新聞出版「一冊の本」、東京大学出版会「UP」など
有斐閣「書斎の窓」など

このほか、イベントや飲食店・駅などに置いてあるフリーペーパーなどにも
→ひとりでチェックするのは大変・・・分担して集めてみては？

本に関する情報源②

- 「レファレンス協同データベース」
→ 国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、レファレンス（調べものの相談）のデータベース
- 「Honya Club」 → 日本出版販売(ニッパン)のサイト
- 「e-hon」 → トーハンのサイト。文学賞の情報が充実している
- 「版元ドットコム」、「WEB本の雑誌」、「Book Bang(ブックバン)」、「ダ・ヴィンチWeb」 → 新聞やPR誌に掲載された書評情報が多い
- 「絵本ナビ」、「子どもの本 on the Web(日本児童図書出版協会)」
→ 年齢別、テーマ別のおすすめ本や、読み聞かせに使える本などが探せる

- ・それぞれサイトごとに特色があり、文学賞の情報などの知識も身につく
- ・マメにチェックすると「本を選ぶ眼」を養うために役立つ

出版業界の主な団体

それぞれホームページがあり、
様々な情報が発信されている

【出版業界4団体】

日本書籍出版協会(書協)	1957年
日本雑誌協会(雑協)	1956年
日本出版取次協会(取協)	1950年
日本書店商業組合連合会(日書連)	1945年

【おもな出版業界団体】

教科書協会	1953年
出版梓会	1948年
全国学校図書館協議会(全国SLA)	1950年
日本図書館協会(JLA)	1892年
読書推進運動協議会(読進協)	1959年
日本児童図書出版協会(児童出協)	1953年

出版界からの批判

○「図書館は無料貸本屋」論争

- ・ 津野海太郎「市民図書館という理想のゆくえ」
(『図書館雑誌』 vol. 92, no.5, 1998.5)
- ・ 林望「図書館は『無料貸本屋』か」
(『文藝春秋』 2000年12月号)

○「貸出増加は出版不況の一因、作家の利益を侵害している」 (日本文藝家協会や日本ペンクラブのシンポジウムでの論争)

○全国図書館大会(2015)で、新潮社の社長から 「一部の新刊本について1年間の貸出猶予を求める」お願い

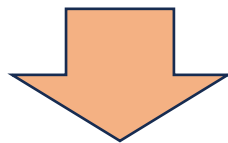
○全国図書館大会(2017)で、文藝春秋の社長から 「図書館での文庫本の貸出をやめてほしい」と表明

図書館の貸出が書籍販売を妨害している？

○浅井澄子『書籍販売の経済分析』日本評論社、2019

→公共図書館の貸出が書籍販売に与える影響について分析を行った

- ・「貸出冊数の増加は販売部数に負の影響を与えるが、その影響は非常に小さく、大きな影響を与えるものではない」
- ・「出版関係者から批判的意見が出るのは、図書館の情報公開が不十分なことも要因のひとつ」



- ・出版不況に対しては、図書館側もひとつとではない(痛みを知る)
- ・敵対関係ではなく、読者育成のために協力する必要がある

出版点数と販売額／図書館数と貸出冊数

新刊点数・販売額ともに減少 ⇔ 図書館数と貸出冊数は増加傾向

年	新刊点数（点）	推定販売金額（億円）	
		図書	雑誌
2013	77,910	7,851	8,972
2014	76,465	7,544	8,520
2015	76,445	7,419	7,801
2016	75,039	7,370	7,339
2017	73,057	7,152	6,548
2018	71,661	6,991	5,930
2019	71,903	6,723	5,637
2020	68,608	6,661	5,576
2021	69,052	6,804	5,276
2022	66,885	6,497	4,795
2023	64,905	6,194	4,418

年	公共図書館数	貸出冊数 （千点）
2013	3,248	711,494
2014	3,246	695,277
2015	3,261	690,480
2016	3,280	703,517
2017	3,292	691,471
2018	3,296	685,166
2019	3,306	684,215
2020	3,310	653,449
2021	3,315	545,343
2022	3,305	623,939
2023	3,310	632,676

『出版指標年報2024』より

『日本の図書館 統計と名簿2023』より

図書館市場

	合計	合計					
年度	図書 購入額 (億円)	前年比 (%)	小学校 (億円)	中学校 (億円)	高等学校 (億円)	大学 短大 高専 (億円)	公共 図書館 (億円)
2020	713.2	96.8	91.9	58.0	39.5	275.7	248.1
2021	688.5	96.5	90.9	60.3	34.8	255.8	246.7
2022	698.1	101.4	90.1	59.1	40.0	255.7	253.4
2023	676.4	96.9	88.8	65.3	36.8	233.0	252.4

日販ストアソリューション課『出版物販売額の実態2023、同2024』より

展示という選書

○展示の「目的」とは何か？ →貸出につなげるため

- ・本の「存在」や「魅力」を知ってもらう
- ・書架ではなかなか結び付かない本を関連付ける

展示もひとつの選書・・・司書の腕の見せどころ

○「見せ方」の工夫 →フェイスアウト(面出し)の効果

○テーマ、切り口の工夫

- ・年間読書カレンダー
 - 読書週間などの行事以外にも、出版業界で行われている読書推進・販促のためのイベントが多数ある
 - 作家の誕生日や命日(文学忌)、「〇〇の日」など

除架・除籍のための選書①

○「**除籍基準**」・・・分類ごとに保存年限や除籍を判断する
さいの観点が決められている

- ・ 内容が古い → 「発行から〇年」など・・・分類やテーマにより基準が異なる
- ・ 利用がない → 一定期間の貸出数を出すなど、客観的に見る
- ・ 汚破損している → 利用や保存に支障がある場合、修理や買い替えも検討する(可能であれば)

○**閉架書庫**を有効活用する(ただし固定はしない)
→開架に置くスペースがないから即除籍は間違った判断につながる

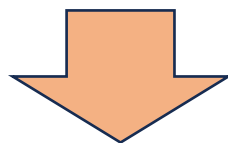
○除架・除籍をすることで書架が生き返り、より活用される

除架・除籍のための選書②

○「入れるよりも難しい」ことを意識する

- ・ 司書個人の恣意的な除籍になっていないか？
- ・ 利用者が納得する説明ができるか？
 - 客観的な材料(統計など)を使用したり、複数の図書館員で判断するなどの必要がある

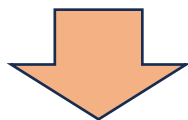
○「船橋西図書館蔵書破棄事件」(2001)などの教訓



過去の歴史を振り返り、「自館だったらどうするのか？」を考え、図書館員が共通認識をもつことが重要

さいごに（まとめ）

- 出版界と図書館界は「隣り合わせ」であり「両輪」の関係
- 異なる存在意義をもつがゆえに、それぞれが抱える問題を理解し、ともに共存する方法を探っていくことが必要



新しい本との出会い方を協力して模索していくことが、
住民の読書活動の支えになる

- そのためには、司書として常に「本を選ぶ」眼を養うことが大切
- 書店員など、異業種の人話を聞く機会を持ち、視野を広げよう

参考資料

- ・『出版指標年報2024』全国出版協会・出版科学研究所 2024
- ・『出版社の日常用語集 第5版』日本書籍出版協会研修事業委員会／編 日本書籍出版協会 2024
- ・『出版営業入門 第4版』日本書籍出版協会研修事業委員会／編 日本書籍出版協会 2021
- ・『季刊出版指標 2024年夏号』全国出版協会出版科学研究所 2024
- ・『出版物販売額の実態 2023』『同 2024』日販ストアソリューション課
- ・『日本の図書館 統計と名簿 2023』日本図書館協会 2024
- ・『図書館情報学用語辞典 第5版』日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 編 丸善出版 2020
- ・『図書館情報資源概論 3訂版』馬場俊明／編著 日本図書館協会 2024
- ・『公共図書館の選書業務における選書ツールの研究』木下朋美／著 樹村房 2022
- ・『書籍市場の経済分析』浅井澄子／著 日本評論社 2019
- ・『事例で学ぶ図書館情報資源概論』吉井潤／著 青弓社 2023

参考ウェブサイト

- ・経済産業省「構造実態調査2020」（2025.1.20参照）
<https://www.e-stat.go.jp/index.php/dbview?sid=0003450009>
- ・出版科学研究所「出版流通条件」（2025.1.20参照）
<https://shuppankagaku.com/knowledge/conditions/>
- ・JPO 書店マスタ管理センター「書店店舗数推移(店舗坪数別推移、新規・閉店推移等)」（2025.1.20参照）
https://www.jpoksmaster.jp/Info/documents/top_transition.pdf
- ・経済産業省「『関係者から指摘された書店活性化のための課題(案)』を公表します」（2025.1.20参照）
<https://www.meti.go.jp/press/2024/10/20241004002/20241004002.html>
- ・日本図書館協会「図書館員の倫理綱領」（2025.1.20参照）
<https://www.jla.or.jp/library/gudekine/tabid/233/Default.aspx>
- ・文部科学省「図書館・書店等連携実践事例集」（2025.1.20参照）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/mext_00001.html

ご覧いただき
ありがとうございました

